



地元民の人氣毛

Ji moto min nin ki mo



日本の夏には「手ぬぐい」が良く似合う

1898年(明治31年)の創業以来「染一筋」で旭川のまちと共に歩み続ける近藤染工場。100年前と変わらない地でいまでも営業を続ける工場では大正時代の時計が時を刻み、のれん・はんでんのぼりなど日頃街中で目にする染ものが製造されています。

その製法は、伝統の「刷毛引き本染め」。文字や絵柄をていねいに描く「下絵」、刷毛で色鮮やかにむらなく染める「はけ染」など、職人が手作業で染め上げていく本染めは、美しい表情とぬくもりのある風合いが魅力です。

旗や懸垂幕など大きなサイズの商品だけではなく、個人で使用する小物も魅力。暑い季節は、肌ざわりのよい手ぬぐいがおすすです。外出時は首に巻いて日焼け防止に、持ち歩けば突然の降雨時も活躍。涼し気な柄はインテリアとしても機能。様々な場面で活躍する手ぬぐいは同工場で購入可能です。本格的な夏が訪れる前にぜひどうぞ!



表紙絵／アベミチコ



季節や行事、丁寧な仕事など、日本人としての大切なものを思い出させてくれる近藤染工場さん。手ぬぐいの使い方を聞くと、飾ってから使うことを「育てる」という表現をしていて、染めに対する愛を感じました。

本染め手ぬぐい
「あさひかわ」1,296円
デザイン／アベミチコ



株式会社 近藤染工場

旭川市1条通3丁目右1号
電話 (0166) 22-2255
営 / 8:00~17:00
休 / 日曜・祝日

